

平成 29 年度 第 3 回 昭島市行財政運営審議会

議 事 要 旨

〔日 時〕 平成 29 年 9 月 14 日（木） 午後 6 時 30 分

〔場 所〕 昭島市役所 3 階 庁議室

〔出席者〕

1 委員

小池満也会長、田中啓之副会長、赤田輝子委員、荒井康裕委員、金野美奈子委員、平野博典委員、宮田次朗委員、山下俊之委員

2 事務局

山下企画部長、板野行政経営担当課長、関谷企画調整担当係長

3 傍聴者

なし

〔欠席者〕

真如むつ子委員、高橋良昭委員

〔配付資料〕

- ・ 第 3 回昭島市行財政運営審議会次第
- ・ 第 1 章 昭島市行財政改革推進プランの概要
- ・ 第 2 章 これまでの行財政改革の取組と今後の見通し
- ・ 第 3 章 行財政改革の推進に向けた取組
 - 1 魅力と活力あるまちづくりの推進

〔議事要旨〕

1 第 2 章 これまでの行財政改革の取組と今後の見通し

事務局より、資料「第 2 章 これまでの行財政改革の取組と今後の見通し」を示し、「1 これまでの行財政改革の取組による成果」として、第四次中期行財政運営計画で掲げた数値目標と計画期間内に実施した主な行財政改革の取組について説明。また、「2 昭島市の財政状況」として、平成 28 年度までの決算状況と平成 32 年度までの財政見通しについて、グラフ等を用いて掲載する予定であることを説明。

<質疑応答>

- ◆ 5 ページに記載の職員数の推移について、平成 6 年度から約 370 人減少とあるが、民間委託した人数も 300 名程度であるのか。最近、市民サービスが低下しているのではないかと感じている。人を減らしたことにより、職員と話をしても、時間が無い、手が足りない、人がいないということが常に出てくる。従来の業務を民間委託していて市民サービスが変わらないの

であればまったく問題ない。その辺の考え方で正直目が届いていないことが多いのではないかなと思う。具体的にいうと、ある会館にはパソコンが 20 台程度あるが、立ち上げてインターネットを利用しようとしてもまったく動かない。よくよく調べると 1 台ぐらいしか動かない程度の能力しかないものが付いており、その事を何度伝えても変わっていない。例えば、市立会館等にある程度職員が配置されていれば、もう少しスピード感のある対応がされるのではないかと感じる。今はスピード感も無く、市民サービスの低下が職員を減らすことにより起きているのではないかと感じている。【宮田委員】

- 各行政分野によって職員が減っているからサービス水準が減っているということは一概に言えないが、その様に感じる部分は正直あると思う。サービス水準を低下させることはあってはならないことであり、それを直接正規の職員が担うのか、民間活力を導入してやっていくのか、それらを合わせて組織体制を見直し強化を進めていくのか、職員数の整合を図ることについて、これからじっくりと見極めていかなければならないと考えている。サービス水準が低下していると感じるのであればどんどん意見を言っていただき、それを補うためにどういった対応をとっていけばいいのかを考えていく。【事務局】

- ◆ 本庁内外の人のバランスが違ふと感じた。本庁舎は凄く人が多いのに、外へ行くと人が少ない。地域のことを理解している人がいない。中の業務は人を減らしていないのではないかな。【宮田委員】

- ◆ 市民一人あたりの職員数を 26 市で比較すると、昭島市は真ん中程度である。住民サービスはあればあった方がいい。具体的などころまではわからないが、人員配置に問題があるのとは感じる。【平野委員】

- ご指摘のとおり、組織ごとの人員配置のバランスについても常に見直しを行い、配置をしていかなければならないが、なかなか小回りの利かない部分もある。年月が経過する中で、組織的な偏りが生じていると思われる。そうしたところはなるべく見直し、小回りの利くような組織体制を整えていかなければならないと思う。今後、第 4 章として職員の適正配置について掲載していく予定であるが、そのあたりも含めてフォローをしていければと考えている。【事務局】

- ◆ 職員数の推移を見ると、市は努力をしている数字の表れだと思うが、聞いていて気になったのが、人数という問題もあると思うが、職員の若い世代、中堅、ベテランというような世代構成の問題である。例えば、中堅や若い世代のところで採用が厳しく職員がおらず、退職者数が多くなり、気付いたら頼れる職員がいなくなるとならないように、むしろ今、職員を採用していくことの方が逆に必要で、削減よりも将来を見据えた時にもっと備えていかなければいけないのではないかなと思っている。世代のバランスということも意識しないといけないのではないかなと感じた。【荒井委員】

- 職員の世代のバランスも理想的ではなく、どうしても頭でっかちになり、一定の年齢層になると減り、採用を増やした時期にはその年齢層が多い状況である。昭島市に限らずというところもあるが、足りない年齢層を補うために市としても社会人枠の採用や、任期付の任用等、色々と手を打ち始めており、年齢構成を正していければと考えている。採用の受け皿も大事であるし、将来を見越した時に年齢別にバランスのとれた職員がいることが重要であるので、考えていかなければいけない。【事務局】

- ◆ 5 ページの職員数の状況であるが、派遣の職員をいれると括弧書きで 635 人とのことだが、28 年度以前はこの括弧書きに対応する派遣の職員はいないということか。【金野委員】

- 28 年度以前は、ここにも記載している地方自治法に基づく派遣職員が 2 人おり、これは除外している。29 年度より新たに公益的法人等への昭島市職員の派遣等に関する条例に基づき、20 人を社会福祉事業団に派遣している。この 20 人のほとんどは保育所関係者である。【事務局】
- ◆ 従来は自治法等に基づき派遣をしていたが、それ以外に今回は社会福祉事業団に市から派遣を行っていることでプラスとなった。これは外数なのか内数なのか。【小池会長】
- 外数にすると 614 人となる。実態上は、受入先である社会福祉事業団の方で給与を支弁するが、市からの補助を充てているので、実態上は市が支弁していることと変わらない。
28 年度までは自治法等の派遣を除いた上で、さらに 1 人の派遣受け入れもあった。それも除き 630 人という形になっている。【事務局】
- ◆ この表には再任用職員は入っていないのか。【金野委員】
- フルタイム再任用という位置付けの再任用職員は入っている。人数にすると 27 名である。【事務局】
- ◆ 全体の職員の構成が分かるとよりわかりやすいのではと感じた。また、任期付職員の話があったが、非正規の職員の方はどれぐらいいるのか。【金野委員】
- 29 年度の人数について、フルタイムでない再任用職員が 54 人、再任用職員の代替の嘱託職員が 34 人、嘱託職員、臨時職員が 396 人。正規の職員 635 人と合わせると 1,119 人となっている。【事務局】
- ◆ 非正規の職員の方は増えてきているのか。【金野委員】
- 24 年度は全体で 1,268 人であった。そこから見ていくと嘱託職員と臨時職員は減っている傾向にある。【事務局】
- ◆ 必ずしも正規の職員を減らし、非正規の職員が増えていることでもない。【金野委員】
- 民間委託を推進しているので減っている状況ではあるが、正規職員を非正規職員に置き換えている部分もある。【事務局】
- ◆ 6 ページの主な行財政改革の取組のところで、ごみ収集業務や給食調理業務の一部を民間委託化とあるが、これで減った人数は何人か。年度ごとにやると一部になるが、ごみ収集業務や給食調理業務で、直営で残っている職員がいるのか、下に注釈で書いていただけると判りやすい。【山下委員】
- ご指摘のとおり、継続した取組だと、最終的に何人かはここでは読み取れない。年度ごとの減員数をここに載せるかは別として、一覧としてお渡ししたいと考えている。
主な取組内容なのですべては記載していないが、24 年度はごみ収集業務で 2 人の減、給食調理業務で 2 人の減などにより約 4,800 万円、25 年度はごみ収集業務で 1 人の減、公園管理業務で 1 人の減などにより約 4,800 万円、26 年度は民間委託の推進に加え、市民会館へのネーミングライツ導入による初年度の命名権収入を含め約 6,200 万円、27 年度は民間委託の推進に加え、学校の適正配置として拝島第一小学校と拝島第四小学校の統合による管理運営費等の減を含め約 7,200 万円、28 年度は民間委託の推進に加え、市民球場へのネーミングライツ導入による初年度の命名権収入を含め約 1 億 6,700 万円を財源確保額として載せている。【事務局】
- ◆ 5 ページの職員数の関係で、社会福祉事業団への派遣は保育士であるが、それは保育園を社会福祉事業団へ運営委託し、直営の保育園を廃園し、浮いた保育士をそちらでやっていただいているということか。それでまったく新規に出てきたと。【山下委員】
- おっしゃるとおりである。また、一定程度の過員配置も行っている。【事務局】

- ◆ 6 ページのごみ収集業務や給食調理業務の 1 名や 2 名の減というのは、定年退職などの自然減による形で出て来たのか。【赤田委員】
- 定年退職と事務職への任用替えとを併用して取組を進めている。【事務局】
- ◆ 3 ページ以降に数値目標の記載があるが、こういった根拠で定めたのか、ここで見る限り記載はされていないので、その説明が欲しかった。昭島市は高齢者の単身世帯率が 26 市でトップである。今後、地域ケアシステムが出来た時に、医療と介護との連携が重要になる中で、保健師がいなのは昭島市だけなので、そこは考えなければいけないのではないかと。【平野委員】
- 基幹型の地域包括支援センターの関係については、介護保険の特別会計で対応する形となるが、当然職員数には入ってくるので、その動きと併せて調整を図っていこうという形になっている。また、保健師の重要性はこれから高まっていくので、何かしらの手立てをしていきたいと考えている。【事務局】
- ◆ 先ほど荒井委員からも話があったが、職員構成が逆ピラミッドになっている。新陳代謝を考えると、こういう形が一番いい。理想的な姿は、総務費を抑制するのが良いと考える。先ほどから議論が出てきているが、現業職を中心に定年退職を含めた減員を行っているのが、第四次までの行財政改革の中での方向であった。ただし、これからは任用制を含め、多様化の時代に合わせていくのが流れとなる。ある意味では、総労務費を人件費としてどう見るのか。現場に近いところの人員が薄いので、そこを今後どう対応するかである。数値や構成など、出せる範囲で出していいただければと思う。【小池会長】

2 第 3 章 行財政改革の推進に向けた取組

(1) 魅力と活力あるまちづくりの推進

事務局より、資料「第 3 章 行財政改革の推進に向けた取組」を示し、具体的な取組項目の構成について説明。その後、「1 魅力と活力あるまちづくりの推進」の各取組項目について説明。

<質疑応答>

- ◆ まず「1－(1) 窓口サービスの充実」について、意見があればお願いしたい。【小池会長】
- ◆ 行政言葉が多く、この①と②の内容を読んでも判らない。意見は出せない。【宮田委員】
- ◆ 期待する効果がわからない。具体的に何を期待し、数的にどこまでやるのかが出ていない。出来るだけわかりやすく書かないと、効果の検証が出来なくなってしまう。これでは言いようが無くなってしまうところがある。具体的に出していただきたい。【平野委員】
- ◆ ①のワンストップサービスは、目的があって行ったら、そこで全部完結するという理解でいる。あっちに行け、こっちに行けと言われないことだと思っている。本庁の窓口に行って感じたことは、たらい回しも無く、テキパキとし、パソコンが導入されたことで出来ると考えている。税金の相談に行ってもテキパキとしてもらっている、不安はない。【赤田委員】
- 窓口業務については色々と改善をし、分散しないように取り組んでいる。ここに記述があるが、マイナンバー制度が始まったことにより、それを活用したワンストップの更なるサービスの向上ということで、そのあり方について検討する記述となっている。目標値があり、効果検証をするのにどの程度の達成度があるのかというのは、数値をもって検証するのが一番いいが、数値が図りにくいものがあり、体裁的にここまで出来た、達成したという表現で効果を表すこ

とを考えている。【事務局】

- ◆ 例えば、マイナンバー制度のように、ワンストップで済むようにする。今出来ているなら、これを加えたことがアウトプットであるという完成の姿を出す。必ずしも数値を言わなくてもよい。こういった完成の姿が、これまでと新しいことのギャップを解決するのだと。完成の姿を示すことが非常に判りやすいと思う。【平野委員】

○ その差をどうすれば読み取れるか、書き方の工夫や効果検証の表し方を掘り下げる必要があると考える。【事務局】

- ◆ 私としては、逆にマイナンバー制度の利用を①にして、それを判りやすく、市民等に伝える。市役所に北側から入ると、どこに行けば判らない時に総合窓口が遠く、行きづらい。他市にも行くが、昭島の場合、綺麗すぎて判りづらい。掲示物や配置等も行政は縦割りだが、総合的にフロアのレイアウトも含めてやっていただけると嬉しい。対応もだいぶよくなっているが、初めて来た人はレイアウトも含めて判りづらい。①がマイナンバーで、その下にワンストップサービスでも良いと思う。【宮田委員】

- ◆ 私も、①で出てきたワンストップサービスの検討と言う言葉が引っかかる。他の項目は確立や拡充となっているが、検討というと弱腰に感じる。検討してもらうのは市民からすると当たり前なので、検討することが目的ではなく、検討した結果が何なのかを期待していると思っている。今までのやりとりを聞いていると、数値目標を示すのは表現しにくい分野だと説明があり、理解はしたが、最初に検討となると不十分な気もした。【荒井委員】

○ マイナンバー制度は始まったばかりであり、マイナンバーカードの普及自体も高くなく、マイナンバー制度を利用した情報連携についての調査研究を進めて行くという意味合いで、頭にワンストップサービス手法の検討とした。【事務局】

- ◆ マイナンバーの制度そのものは比較的新しく、利用については判るが、ワンストップサービスそのものは昔からの懸案事項である。何年ぐらいから検討をしているのか。【山下委員】

○ 昭島市は平成9年に新庁舎を建設し、旧庁舎から移転をするにあたり、ワンストップサービスの実現についてはそのころから議論はあった。庁舎の構造や物理的、部門的なことから全部がワンストップとはいかないが、なるべくワンストップで済ませられる市民サービスの向上については継続して取り組むというスローガンを基に今日に至っている。【事務局】

- ◆ 導入した市、していない市様々あるが、それぞれ障害になるのがある程度明らかになっていると思う中で、先ほども言われた様にまだ検討というレベルでこのままやっていいのかと。それなら辞める等、はっきりする時期ではないかと思う。将来像として、こういったことがやりたいからワンストップサービスをやるとはっきりして、内部的な障害を乗り越えてでもやらなければならない、検討は検討で終わってしまう。俗にいう市民部系の窓口を中心に福祉とのタイアップが出来れば一番いいと言って、やろうとしたら教育も入ってくるなど収拾がつかなくなるなどもあるので、すべてと言うのは難しいが。ただ、表玄関の部分だけはすべてを網羅した上で、次への引継はしっかりと。何と何が必要なのかをはっきりさせておくだけでも、それができれば窓口サービスの充実につながるのでは。ただ1－(1)で出てくるので何とも言えないが。【山下委員】

- ◆ 大事な基幹業務ということの表れが、この1番で出てきているのだと思うが、難しい問題である。【荒井委員】

- ◆ 魅力と活力あるまちづくりの推進という項目の窓口サービスの充実なのかと思う。効果的、

効率的な行政運営のひとつとして窓口サービスの充実があるならいいが、魅力と活力あるまちづくりの推進の中で、窓口サービスの充実はどうかと感ずる。【山下委員】

◆ 転入して来た人から見ると、窓口の対応が良く、たらい回しなどがなければ、市に対する印象は凄く良くなると思う。魅力あるまちになるのではと思う。【赤田委員】

◆ どの市も市民に対して、窓口対応に関する満足度調査を行っていると思う。昔の市役所は酷い職員もいたが、今では8、9割は満足して帰られている。ただ、特殊なケースが抜けており、2度も3度も足を運ばせるのかというクレームが来る。そういったものをいかに逃さずに、出来るようにしておくかがこの項目のポイントではないかと思う。【山下委員】

○ ご指摘の箇所はごもっともだと思っている。【事務局】

◆ 検討という表記は変えたほうがよいのでは。もっと自信をもった表記で。【赤田委員】

○ 表記については工夫をしていく。【事務局】

◆ 物語をどういった筋書きで行くのか、ストーリーをはっきりさせておいていただき、それに基づいてフォローをしていくという形でお願いしたい。【小池会長】

◆ 検討とは、ハードの部分とソフトの部分の両方であるか。ハードであるなら入口の近くに総合受付を置くためのレイアウト変更であると思うし、ソフトであるなら今の情報を、現在の縦割りのセクションを超えて共有できるようにすることがソフトだと思う。検討がどういった方向をイメージしているのかが分かる方がいいと思う。【荒井委員】

○ 財政論に立ち入ってしまうので、基本はソフトの視点に立って、今ある条件の中で何が出来るかと言うところになる。【事務局】

◆ 一方で、2番はシステムの改修等になると、データシステムをリプレイスするとかいうことも含めた話になり、お金をかけてハード面の整備も一体で行うということにならないか。【荒井委員】

○ 基本的には、PC関係は5～6年でハードウェアの入れ替え等もあるので、そこに併せて市民ニーズに対応できるようにするには、どういったシステムでやるかというところで進めていく。多大にお金をかけると言うことではなく、できるだけシステムの更新に合わせ、良い物に変えていく考え方である。【事務局】

◆ 次に「1－(2) 積極的な情報発信」について、意見があればお願いしたい。【小池会長】

◆ ②の携帯端末による情報発信サービスはあまり利用したことがないが、迷子になった人とか、方向によっては聞こえないという苦情が市役所に来ていると聞いているが、その内容も携帯端末で発信を行っているのか。【赤田委員】

○ 今現在は登録するとメールで知らせるサービスを行っているが、情報発信は違う部分である。年齢層により使う媒体が違って来るので、携帯端末がメインで使われている若年層世代に発信を強めることにより、前回も話したが人口減少を防いでいく中で、こういった点も併せて強めて行こうといった形となっている。【事務局】

◆ 昭島市は迷子だけの情報発信である。迷子が出たら発信されて翌日見つかりました、ありがとうございました以外発信されていない。何度もお願いしているが、例えば八王子市は大雨注意報が出れば気をつけましょう等と言った発信が随時出ている。9月1日ならば防災について気を付けましょう、各家庭で協議しましょうなどと発信されているから、加入していたら色々な情報がもらえる。また、行政は広報を出しているが、タイムリーなものは出ていないためにこれが有るのだと思うが、今現在は行方不明だけで、行政に聞くと行方不明しか出さないと

い切り、そのための情報であると担当者はいう。市がもっとイベントや総合防災訓練を実施するなど発信してはどうかといったが言い切られた。市として色々なものを入れようとしているのなら是非入れて頂きたい。考え方が変わっていないのであれば、ここは消していただきたい。

【宮田委員】

- ツイッターでの発信はしているが、確かにメールでの発信はしていない。昭島市としては、積極的な情報発信が苦手な部分があった。やはりこれからは戦略的な広報や積極的な情報発信を打って出ていかないと昭島の魅力を内外にわかってもらえないし、わかっている人には再認識していただこうと。どんどん戦略的なことをしかけていこうという考え方に立っている。【事務局】

- ◆ 例えば昭島はこれだけ魅力的だからマンションを探してるなら昭島で買うことも検討してください、昭島に住むことも検討してくださいという戦略が①の部分で、先ほどの話は②の部分であると思われる。私は、①の部分は知らなかったが、②も無線が聞こえなくてもメールでわかっていると思っていた。①の方が大事だと思う。【赤田委員】

- 携帯端末や公式ツイッターは、使い方により活用できる部分が違うと思うので、整備する必要があると考えている。【事務局】

- ◆ 市民にも発信を行った方が良い。他市の人から、昭島の知名度が低いことを言われることもあるので、携帯等で発信をしていれば見る人もいる。若い人は携帯やスマホを手放せなくなっている、そういう人たちに魅力を伝えたいと思う。【赤田委員】

- ◆ 知りたいのは、他市がこういう媒体でこういうことを連絡しているというのがあると、それに対して昭島市は一体どうなっていると判断が出来る。その上で、なおかつ市民が必要だと思われるところを追加するなどしないと全体像が見えない。それを資料として出していただき検討していく形に出来ないか。他の市も調べ、こういう媒体でこういうことをやっている、過不足はあるのか、市民は困っていないのか、その議論をしたいと考えている。【平野委員】

- 可能な限り資料提供したいと考えているが、限られた時間の中でまとめて行かないといけない中で、事務局で考えさせていただきたい。【事務局】

- ◆ まとめとして、是非企画部門が縦軸、横軸の使い方をリーダーシップをとっていただき、丁度皆さんから指摘のあった箇所を具体的に庁内で議論をしていただき、先ほどの意見を反映していただけるとありがたい。【小池会長】

- ◆ 実際に情報発信の素案を作るのは、関係各課であり、その課から積極的な体制を企画の方が作っていくようにしないと、面倒ばかりが増えるという話になる。個人的には、昭島のホームページは内容の更新が本当に少ない。イベントがあると、そのイベントについて何か他に影響があるものや休館になるなどの情報がない。たまに見ても休館になってないが、市報には載っているがホームページはそのままなど、そういったところのバランスが、ホームページは情報推進課か秘書広報課が一点でやっているのか、各主管課で行っているのか、整理を併せてやっていただくと中身は良いと思う。はっきりいってそのレベルの内容が整理出来れば、行財政改革の取組にするような内容でない気もする。②の携帯端末の方は、携帯メールの方はまだまだこれからどうするかは良いが、スマートフォンやタブレット端末向けのアプリについても、他の市ではホームページのイベント版だけを出していたり、保育園や救急医療関係だけを掲載していたりするので、工夫をしていただければと思う。【山下委員】

- ホームページの指摘をいただいたが、正に改善をしていかなければいけないとの課題を持っ

ている。【事務局】

- ◆ 情報発信とはずれてしまうが、少し前に千葉市で端末を使って道路の陥没箇所や冠水箇所などの情報提供をして、収集する使い方が話題になったことがある。そういった形で情報収集をネット等で行うことで、行政がパトロールするコストが下がれば良いと思うが、そういった取組はいかがか。【田中副会長】

○ 今のところ具体的に取り組んでいないので、それもこれからの課題とし、体制が整えばより良くなるのではと感じている。現状ではシステムのものはまだ完成されていないので、今は電話での連絡等に頼る状態である。【事務局】

- ◆ 1－（４）の多種多様な連携・協力の推進に入れてみては。【山下委員】

- ◆ あるいは、3－（４）の公共施設マネジメントの推進のところで、インフラのメンテナンスということであれば、市民の力を活用したマネジメントとして該当するかもしれない。土木の分野では市民の通報によるものが発見のきっかけとなるので、事故が起きる前に市民の方がすぐ通報出来るようにしておくということがトレンドだと聞いている。情報発信とは少し違うのかもしれないが、インフラと言う意味では公共施設マネジメントのひとつなのかなと思う。【荒井委員】

- ◆ アナログからデジタルに世の中は変わってきており、当然デジタルになれば双方向で色々なコミュニケーションが取れるような方向にもっていくことが効率化に繋がっていく。個人的なことであるが、自動車産業でもすべて個人に対してのウェアラブルが標準化となっている。この車はこういった仕様、必要な部品はこれぐらいというのがすべて携帯端末で管理されている。そういうことをしないと、人が変わっても品質の保証を図っていかないといけない。ぜひ、アナログからデジタルに変わって来ているので、そうするとデジタルのツールを色々な形で活用し、我々の方で大量なデータをいただくかになっている。例えば何でも企画が回答するのではなく、防災課の課長が来て回答するなどでも良いのではないかと感じている。【小池会長】

- ◆ シティプロモーションと聞いて、別府市の取組で市長が別府市の名前を内外に広める目的で、動画再生数が100万回を達成すると、遊園地で温泉に入りながらジェットコースターに乗ったりできると公約を掲げた。300万回再生を達し、温泉遊園地がある期間開園した。そうしたことを昭島市が本当にやろうとしているのか、市民が期待しているのかという別で、別府市がそういうことをやったからと言って、昭島市も同様の企画を成功させて名前が広まったとしても、それが本当に市民が求めていることなのか、昭島市が本当に取組むべきことなのかという心配はある。【荒井委員】

○ 現在もシティプロモーションに取り組んでいるが、お金をかけずにやろうと行っている。別府市は言わば特別であり、一般的に考えると地道になるべく経費を掛けずに、しかも昭島の知名度を上げていくような取り組みをしていきたいと考えている。この記述だけでは、読み取れないことで申し訳ない。【事務局】

- ◆ 市民の期待だけが膨らみ、実際現状の情報がアップデートされていない状態で背伸びをしてはいけないと感じた。【荒井委員】

○ シティプロモーションは、やはり言葉ではないがこういった言われ方が現にあり、それで取り込んだところもある。日本語でわかりやすく書くということも一つの表現方法と考えている。【事務局】

- ◆ 表現レベルのことであるが、1の(1)から(4)の4つの項目の中で、(3)だけが抽象度のレベルが一段低く感じ、4つの並びの項目間の精査が必要と感じた。関連するかわからないが、全体のタイトルが、魅力と活力あるまちづくりの推進とあるが違和感を感じる。1から4の4つの章立てを見ると、2以下はいかに行政財政改革の具体的な項目と感じるが、1だけが浮いているように感じる。ここに行政の役割と言うか、行政と市民との繋ぎかたをより魅力的、効果的なものにするための体制整備のような、ここに書かれている内容がよりの確に反映されるような小タイトルが付けられると、よりわかりやすくなるのではと思った。まちづくりという言葉はあいまいで、実際にまちをつくるのは行政ではなく、市民全体が作るものと思うので、その中で行政がより魅力的な役割を担うために、何かわかりやすい表現があればと感じた。ここに書かれたことが適切に反映されるような表現を考えていただけると、よりわかりやすくなると感じた。【金野委員】
- 第四次までにこだわらずに、斬新にやって行ければと思う。色々と角度を変え考えさせていただきたい。【事務局】
- ◆ 昭島市には、プロモーションをする時に住んでいた人や住んでいる人が魅力と思っているところをどんどん発信できたらいいと思う。市役所だけで考えるのではなく、市民の魅力を集約して出せるようなものが良いと考える。昔から残っている小さなもの、ノスタルジーなものなど、市民の方が出していくといいと思う。(4)の多種多様な連携・協力の推進であるが、財政の観点から、企業、大学やNPOの協力によってコストがこれぐらい下がると言う方向を目指していると考えてよろしいか。【田中副会長】
- 単にコスト面だけではなく、魅力、活力あるまちという中で、こういう連携がなされていけばいいという項目である。【事務局】
- ◆ 個人的には、高齢者が増えている中で元気な高齢者もたくさんいるので、そういう人たちの時間を使い、行政のコストを下げることを考えた。【田中副会長】
- ◆ 先ほど各項目のタイトルについての意見があったが、キーワードで言うと、窓口サービスの充実であれば、スピーディや、より親切という様に、どういう方向を行財政の中で行っていくのが魅力であり、活力であると考え。強靱なまちづくりと考えるのであれば、災害に強いまちづくりの代表的なキーワードだと思うので、キーワードがあると目標が近づくのではないかと考えた。【荒井委員】
- 関連がわかりやすいような形のタイトルなどを検討していく。【事務局】
- ◆ 1－(4)多種多様な連携・協力の推進であるが、いつも感じるのが昭島市の26市に対する位置付けをほとんどの方が知らない。例えばNPOの人口対比の数は昭島市が26市で一番低い。補助金等の中の補助も26市の中で一番低い。この中で謳うのであれば、NPO団体を立ち上げるような工夫をして、26市の中での昭島市の財政の位置づけや、老人の所帯比率など、市民に判りやすいように長所や欠点を外部に発注すればよい。年間5万円程度でやらせて資料を集めれば判断材料が増え、議論がやりやすくなると思う。聞いていると、企業であれば敵の良いところと自分の良いところを比較すると思うので、わかっていなさすぎる気がする。昭島市は人件費を減らし、物件費を増やしたが、差し引きするとペイしている。26市で比較するとトップグループに入る。全体を色々な面で比較することが大事である。【平野委員】
- 分析の手法としては、26市の中のどの位置かということを、常に意識して押さえていく必要はある。【事務局】

◆ 職員が作成するのでは大変なので、外注で出せばいい。【平野委員】

○ ここにある、多種多様な連携・協力の推進となると、現存する企業や大学、NPOとなる。NPOを市が増やしていこうと言う視点には立っておらず、今あるところとの連携を深めていくという意味合いとなっている。【事務局】

◆ 市として必要な資料があるのではないか。その資料はある程度時間をかけないと調べられない。何も市の職員がする必要がなく、外注に出せばいいのではないか。そうすればきちんとした良い物が出てきて、判断材料が増えるのではないか。【平野委員】

○ おそらく、委員ご指摘の必要資料と、行政にとっての必要資料に乖離があるので、こうした意見が出てくるものと思われる。行政に必要でないところまでお金を使ってまで他にやってもらうのかというと、違う話になってしまう。ここについては、既存の団体等と連携を図っていくとの話であるので、ご理解いただきたい。【事務局】

◆ 市民が昭島市の特徴や長所、短所を知っていないと困るのではないか。【平野委員】

○ 外注を行うにしても税金がかかり、市民の方にとっても、その情報を得るために税金を使ったのかと言う方もおり、難しい。【事務局】

◆ 例えば、私たちが前回やったことを知らなかったという人が沢山いる。昭島市の学力は下の方で教育予算は多いが、どこに使っているのかは知らなかった。単身高齢者の所帯比率も26市のトップクラスであり、介護保険や生活保護が増えている。みんなが知っていて、それでいいとなるのが本当の姿であるとする。【平野委員】

○ 行政情報については、色々な角度から財政状況等も含め、市の広報等を通じて公表している。必要に応じて市民の方がわかるものは提供しているつもりである。ただ、それ以上掘り下げて分析となると、求める度合いが違うと思うので、全部細かく分析するための情報を公金を使って作り、それを提供するというのは違う議論となる。【事務局】

◆ 3点ある。まず、1－(3)と(4)に自治会という言葉が全然出てこない昭島市の体制を悲しく思う。次に、1－(3)①の危機管理体制の確立のところであるが、Jアラートも入れていただきたい。今までは自然災害が主だったが、あきる野市等でもJアラートの伝達訓練も行っているのだから、今後どうするのか。地域防災計画にあるとしても危惧しているところである。②の地域の防犯・防災対策の推進であるが、学校避難所運営マニュアルの検証等によるとあるが、書くのであれば、学校避難所運営委員会の推進で良いのではないか。運営の訓練をしているので、これは多摩地域でもここまでやっているところはない。次に、市民との連携部分でコミュニティ協議会の注釈に、市内の区域の目安を6区域とあるが、現状は3つである。今後どこかが誕生すると想定している所は無いと思っている。何度もお願いしているのは、平成17年5月に条例ができ、早急な見直しを依頼しているが、ここに書くのであれば見直しをしていただきたい。6地域は生きていないので、書かないでいただきたい。活動拠点を与えるとあっても3つ目の委員会には実現していない。文章上だけである。3年前まで、市のホームページには自治会という言葉はなかった。地域に対する市の位置づけが弱い。地縁組織に対することが載っていない。地域で頑張っている組織を支援することがないと市民は元気が出ない。【宮田委員】

◆ 実感として、確かにその通りだと感じている。私からもお願いしたいのは、例えば1の魅力と活力あるまちづくりの推進は、担当課の心と、キーワードも含めてどう繋がっているのかというところから検証していく必要があると思う。第四次までとは違い、魅力と活力あるまちづくりがタイトルの1番として出てきたということは、ウエイトとして大きいことであることか

ら、この項目をどのように出してきたのかという合意形成がないと意見がまとまらないのが今日の指摘の最大のテーマである。そこを是非やっていただき、実態とどう繋げるかが出来ると非常に良いと思う。その仕組みをしっかりとしないと、色々な組織、団体でも同じであるが、上意下達だけでは何もできないし、やはりボトムアップは必要である。コミュニケーションがあって活力のあることが出来るのだと。そうすると市の中のコミュニケーションとして魅力あるまちづくりを推進していくために、本当に窓口のサービスの充実はこうである、ここはスピードを出すと。1～4の項目の共通概念として捉えたとき、スピードならスピードとあれば議論が出来るといいと思うので、これからの中で進めていただければと思う。【小池会長】

- ◆ 各主管課から出されたものを企画の方でただ整理しただけなのか、こういった項目もあるのではないかと働きかけをして出してもらったのかまではわからないが、もう一度精査をした方が良いと感じた。特に思うのは、安全・安心なまちづくりの推進と言うことで危機管理体制、地域の防犯防災ということで、俗にいうソフト関連事業しかのっていない。ハード整備をしないと実際に避難しようにも避難する道がない。昭島は比較的早く市になっているので、昔の建築基準法の2項道路が多い街でもあるので、危険はないのか、解消するにはどうしたらいいのか。当然、都市計画なり土木関係の部署から意見が出てしかるべきであるが、意見のいの字も無いようなものが出されたら、ここに全体でまちづくりの項目はなく、都市基盤の整備に該当するものがどこかに無ければ魅力と活力あるまちづくりなどできない。実際これだけのことをやるにはこれだけの経費がかかり、歳入をこれだけ増やさなければならない、歳出をカットしなければならないというところに行くのにそこが無い状態で、我々がこの先議論をしても空論となってしまうと感じた。【山下委員】

- ご指摘のとおりであり、事務局としても担当課を含めて立て直しを図っていきたいと考えている。行財政改革推進プランの中で掲げて進めて行く範囲もあり、まちづくりを深掘りしていくのがこの中ではできないところもあるので、整合を取りながら推進プランの中で続けて行くことをはっきりさせていきたいと思っている。【事務局】

- ◆ 議論は尽きないと思うが、時間の関係もあり、意見を色々とうかがったので、事務局だけで悩まず担当課にも振っていただければと思う。【小池会長】

3 その他

特になし。

次回の審議会は、10月5日（木）の午後6時から開催することを確認し、閉会した。